

日本共産党東葛地区委員会と矢田春代元県議候補への公開質問状

平和が戦後最大の危機にあるときに平和運動への分断を持ち込んだ責任を問う

日本共産党東葛地区委員会 殿

矢田春代 殿

2015年5月15日

社会民主党流山支部

代表 小宮清子

幹事長 阿部治正

日本共産党は、4月に行われた千葉県議会議員選挙において、“社民党は公明党の支持を得て戦争法案賛成に転じた”との宣伝を、共産党の宣伝カーや矢田春代候補の宣伝カーからの連呼、有権者への電話かけ、個々面接などにおいて組織的に展開しました。駅頭で共産党の運動員が小宮清子県議の支援者に詰め寄って“それでも小宮を支持するのか”とつるし上げるような行為までが繰り返されました。こうした行為が行われたことは、多くの市民が見聞きをしているだけでなく、共産党の黨員や支持者もまたその事実を認めているとおりに、周知の事実です。

私たち社会民主党は、全く事実無根の宣伝、きわめて悪質なデマという以外にないこの行為に接して、共産党の政党としての資質に深刻な疑念を覚えるとともに、大きな憤りを禁じ得ませんでした。

第一に、このデマ宣伝は、市民の間で社会民主党への疑念を生じさせ、社会民主党への支持を少なからず失わせる効果を発揮しました。

第二に、こうしたデマ宣伝は、それを信じたか信じなかったかにかかわらず、市民の中で政治そのものに対する大きな不信感を生じさせました。信じた者は社会民主党だけでなく、それを通り越して政治一般に対して不信感を抱いたでしょうし、信じなかった者においても「革新政党」を名乗る者たちによる事実無根の幼稚極まりない宣伝に啞然として、政治への嫌悪感や軽蔑の念をいっそう強く抱くことになったでしょう。

第三に、このデマ宣伝は、それを行った共産党におけるモラルの著しい劣化・崩壊を物語るものであり、その点でも、日本の政治全体の腐敗と墮落にいっそうの拍車をかける出来事となりました。

第四に、仮に共産党がこれをデマではなく真実だと強弁するのであれば、共産党という政党が現在の公明党の政治姿勢や社民党の政策や公明党と社民党との関係について正確な認識能力をまったく欠いてしまっているということであり、そうした者たちが政党を名乗って活動しているという日本の政治の不幸を物語る出来事でもありました。

私たち社会民主党は、今の世が往々にしてウソやデマがまかり通ってしまう社会である（その時代の支配的なイデオロギーは支配者のイデオロギーである）からこそ、政治の世界は決してそうであってはならないのだと強く信じています。ましてや「革新政党」を自認する政党にあっては、そうしたウソやデマや陰謀的手段とはきっぱりと無縁でなければならず、むしろその最も激しい批判者でなければならぬと確信して政治活動を行ってきました。それ故に、日本共産党がこうした悪質きわまりないデマ宣伝を意識的・組織的に展開したことに対して、大

きな失望を感じるとともに、激しい憤りを抱かざるを得ないのです。

私たち社会民主党は、多くの市民とともに、日本の政治の中で横行するウソやデマを憎み、それを排除し、根絶したいと真剣に願うが故に、共産党が千葉県議選の中で繰り広げたデマ宣伝について、共産党自身の責任において次の要求に対して誠意を持って答えるように強く求めます。

1. “社民党は公明党の支持を得て戦争法案賛成に転じた”という内容の宣伝を行うことを決定した組織的な経緯について説明を求める。

2. この宣伝内容について、仮に真実だと考えていたのだとすれば、その理由や根拠を明らかにすることを求める。

3. 理性的に考えればこの宣伝内容が事実無根であることは自明であり、このような宣伝を行うことは日本の政治状況に対するはなはだしい無知を暴露する以外の何物でも無い。にもかかわらず理性や知性にもとるこうした宣伝をあえて行ったことに対して、現在どのように考えているのか説明を求める。

4. この宣伝は選挙期間中に広く市民に対して繰り広げられたものである以上、何よりも市民に対して共産党は大きな責任を負ったと考える。市民に対する説明と謝罪をどのように行うのか、説明を求める。

5. 現在、沖縄の辺野古新基地建設、戦争法案の国会への提案、報道・ジャーナリズムへの抑圧などが強まる中、平和・護憲運動は戦後最大の山場、岐路に立たされており、運動のいっそうの強化と広がりや団結が求められている。まさにそうしたときに、平和運動への分断を持ち込む以外の何ものでも無い、利敵行為に等しいデマ宣伝を行ったことについて、どう考えているのか、説明を求める。

6. この宣伝が市民の中で社会民主党への疑念を少なからず生じさせ、社会民主党が本来得るべき支持を失わせてしまったことに対して、社会民主党流山支部と小宮清子県議（当時は候補）への謝罪を求める。

以上の問いと要求への回答を、5月末日までに社会民主党流山支部に対して誠意を持って行い、併せて市民に対しても公表するように求める。

私たち社民党は、共産党が現在の重大な政治状況を理解する能力を失っているとも、また政治的なモラルに完全に背を向けてしまっているとも考えたくはありません。事実、共産党員の中には、“自分もその宣伝を聞いた。共産党のやっていることはおかしい。間違っている”と語る共産党員もいます。理性の声に耳を傾け、デマはダメだと語ることができる共産党員も存在していることに、私たちは多少とも救われる思いがしています。

市民の失望にさらに拍車をかけるのか、それとも信頼を回復することができるのか、それはひとえに共産党自身のこれからの対応にかかっています。今なら、まだ遅くはありません。真剣な総括と反省を、再度強く求めます。

以上